

## 2019 J2 ■順位表■ 暫定：第 36 節

勝点、得失点差、得点、失点、  
岐阜戦の戦績（岐阜から視て）

1	柏	69p	+28	58	30	A●	H●
2	横浜FC	64p	+21	58	36	A●	H△
3	山形	64p	+21	50	29	H○	A●
*4	大宮	63p	+18	50	32	A●	H△
5	水戸	60p	+16	48	32	H●	A●
6	京都	59p	+11	50	39	H△	A●
7	甲府	58p	+18	54	36	A●	
8	徳島	58p	+10	50	40	A●	
9	岡山	57p	+2	45	43	H○	A●
10	長崎	53p	+1	50	49	H●	A○
11	新潟	52p	+16	61	45	H●	
12	金沢	50p	+9	46	37	H●	A●
13	東京V	48p	-1	50	51	H●	
14	山口	43p	-11	48	59	A●	H△
15	琉球	40p	-21	49	70	H○	A○
16	愛媛	39p	-8	43	51	A●	
17	千葉	39p	-13	42	55	A●	H△
*18	福岡	35p	-16	33	49	A○	H●
19	町田	35p	-20	32	52	H●	
*20	鹿児島	31p	-30	37	67	H△	
21	栃木	30p	-20	29	49	A△	H△
*22	岐阜	26p	-31	29	60	---	---

注)\*は消化試合が1足りない

## 次回HomeGame

第39節 vs. 徳島ヴォルティス

11/2(土) 14:00

@岐阜メモリアルセンター

長良川競技場

大酒場 **ホームラン**

名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）

年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より  
「おかえりなさい」が似合う  
アットホームな韓国料理店。『チヂミ屋』は  
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。

休:月曜日

## 投稿募集 !!

gidaidohri@gmail.com

## today's guest : 愛媛FC

2018 J2 12勝12分18敗 勝ち点48:18位

## 直近の対決と結果

2019/04/07

J2 - 8 節 @ ニンスタ

愛媛 2-0 岐阜

## ここ3試合の公式戦の結果

	FC岐阜	愛媛FC
2019/10/14 J2 - 36節 @ NDスタ 山形 2-0 岐阜		2019/10/13 J2 - 36節 @ ニンスタ 愛媛 0-1 新潟
2019/10/06 J2 - 35節 @ 長良川 岐阜 1-1 山口		2019/10/06 J2 - 35節 @ たけびし 京都 2-2 愛媛
2019/09/29 J2 - 34節 @ 長良川 岐阜 1-1 横浜FC		2019/09/28 J2 - 34節 @ ニンスタ 愛媛 3-2 栃木

● J2 残留争いという、厳しく苦しい戦いが続く FC 岐阜。10/6 (日) 第 35 節・ホーム山口戦は、序盤から山口にボールを支配されるが、堅い守備ブロックでゴールを塞ぎ、少ないチャンスを狙う作戦に。すると、前半終了間際に #30 中島賢星の放ったシュートが GK に弾かれたところを #33 ミシャエルが押し込み、先制点を挙げる。後半になると山口の攻撃が迫力を増し、何度も決定機を作られつつも耐える岐阜。しかし、後半アディショナルタイムにまさかの同点弾を浴び、1-1 の引き分け。渴望していた勝ち点 3 を得る事は出来なかった。続く 10/14 (月) 第 36 節・アウェイ山形戦は、台風 19 号の影響により 1 日順延されての開催。上位・山形相手に勝ち点を持ち帰りたい岐阜だったが、前半わずか 9 分で失点。その後も山形にボールを支配される状態が続き、PK を #43 GK ヤンがビッグセーブで防ぐなど、守備に回る時間が続く。しかし、試合終盤に 2 点目を失点し、そのまま 2-0 で敗戦。これで、岐阜は 6 試合未勝利。

この 2 試合で勝ち点を 1 しか積み上げられなかった FC 岐阜。しかし、21 位・栃木との勝ち点差は 4 に広がったものの、20 位・鹿児島との勝ち点差は 5 のままだ。まだ諦めるような段階ではないが、現在のチームで気がかりなのは、守備に重点を置きすぎて、攻撃の形が作れていないことだ。そして、守備に重点を置いているにも関わらず、自分たちのミスから失点を許してしまっているのも問題だ。徐々に残り試合が少なくなる中で、どうしても不安材料ばかりが目立ってしまうが、#5 川西翔太や #10 ライオンの復帰は好材料と考えたい。そして、ここからの 3 試合は本当に重要だ。今節が 16 位・ホーム愛媛戦、次節 10/27 (日) が 19 位・アウェイ町田戦、そして 10/30 (水) は 20 位・アウェイ鹿児島戦だ。この下位チームとの 3 連戦で 3 連勝できれば、J3 降格圏脱出も夢ではない。そのためにも、今節は絶対に勝利して、チームに勢いをつけなければならない。

さて、先述したように、今節の対戦相手は愛媛 FC。昨季は前半戦を最下位で折り返したが、クラブ生え抜きの川井健太監督がチームを立て直して、昨季の最終順位は 18 位。川井監督体制 2 年目の今季は、現在 16 位。3 連勝を果たしたり、大宮に 5 得点を挙げて勝利する一方で 4 連敗を喫するなど、チームの調子に波があるが、現在の岐阜にとっては油断のできない相手であることに変わりはない。通算対戦成績では、FC 岐阜が 7 勝 10 分 8 敗・26 得点 33 失点と負け越している。ホーム戦では 5 勝 5 分 3 敗・20 得点 20 失点と勝ち越しているが、昨年ホーム戦 7/8 (日) 第 22 節は 1-2 で逆転負け。前回の対戦となる 4/7 (日) 第 8 節・アウェイ戦では、キックオフ直後に失点。その後は押し込むけれども得点を奪えず、逆にカウンターで後半に追加点を奪われ、0-2 での敗戦。直近で 2 連敗している相手に、今節は必ずやりベンジを果たさなければならない。

愛媛で最も警戒すべき選手は、#10 神谷優太だろう。U-22 代表でも活躍するこの選手は、自身も 6 ゴールを挙げるが、その多彩なテクニックで愛媛に決定機を生み出している。また、1 トップの #19 藤本佳希は 9 ゴール。直近 5 試合で #10 神谷は 3 ゴール、#19 藤本は 2 ゴールと好調だ。カウンターを主体とする愛媛の攻撃陣に対抗するためには、まずは中盤から後ろで不用意にボールを奪われることを避けなければならない。また、愛媛には期限付き移籍選手として、FC 東京から #6 野澤英之 (17 年は岐阜)、広島から #8 長沼洋一 (18 年は岐阜) が在籍しており、岐阜から移籍した #30 禹相皓も在籍している。彼らを抑え込むような、岐阜の中盤の選手たちの奮起に期待したい。また、愛媛は守備の要となる #5 前野貴徳が累積警告で欠場となる。その隙を狙いたい。

東日本を中心に、台風 19 号の甚大な被害が報道されているが、比較的被害が少なく、人的被害はゼロだった岐阜県。僕らは亡くなられた方々の冥福を祈り、被害に遭われた地域の復興を支援すると共に、ここではサッカーを全力で楽しめる環境に感謝しよう。そして、楽しむからには最後まで全力で選手たちを後押しして、勝利の歓喜を、今度こそみんなの力で掴み取ろう。(ささたく)

## 【第35節】岐阜 1-1 山口

●前回の対戦では0-4でコテンパンにやられた14位・山口。だけど、あの時は北野監督が就任してわずか3日。就任会見で北野監督は『山口をぶっ倒すことしか考えていない』って言ってたけど、残念ながらどう考えても準備不足だったのは否めない（苦笑）。だから、この試合が実質的には北野監督の初対戦という感じ。

さて、試合は序盤から山口のペース。岐阜は、しっかり守備ブロックを作って山口の攻撃を跳ね返すものの、せっかく守備の網にかけたボールを、焦っているのか、それともボールを奪ってからの攻撃にアイデアを共有できていないのか、勿体ない形で何回も相手に奪われ…というか、下手すると相手にボールを渡してしまうような感じで…うーん。ただ、数は少ないけれど良い攻撃の形が出ていたので、これは…と思っていたら、敵陣で奪ったボールを繋いで#30中島賢星がシュートを放ち、GKが弾いたところに詰めた#33 ミシャエルが再シュートを撃って先制点！そして前半終了。ある意味では、理想の形でハーフタイムに入ったのだけれど、僕個人としては、後半が“地獄の45分間”になる嫌な予感がして、先制して嬉しいけれども重い気分になっていたのです。そして残念ながら、そういった悪い予感は現実のものに…（溜息）。山口はハーフタイムに戦術を修正してきて、あるいは勝利を悪い方向に意識してしまった岐阜の守備ブロックが前半ほど効かなくなってくると、何度か決定機を作られてしまう。特に、横っ飛びした#43 GK ヤンの手の先を抜けたボールがポストに跳ね返って、#43 ヤンの手の中にスポッと収まった時には、僕は思わず膝をついてしまったことを告白しなくてはなりません（苦笑）。そして#31 宮本航汰が負傷退場してしばらくすると、#30 中島賢星が交替して…#2 阿部ちゃん？マジか、どう考えたって5バックにして試合終了まで守りきる作戦なんだけど、残り20分を耐えきれるのか…。そしてやはり、5バックになったので守備は立て直せたものの、前線の枚数が減ったので、攻撃らしい攻撃はほとんど出来なくなり、防戦一方でひたすら耐え続ける“塹壕戦”に。気が遠くなるようにジリジリとしか進まない時計を何度も気にしながら、あと少し、あと少し…。しかし、サッカーの神様は残酷だ。最後の最後、アディショナルタイムのラストワンプレー、ゴール前でこぼれたボールを振り抜かれて同点ゴールが決まる。ようやく掴みかけた勝利が、勝ち点3が目前でこぼれ落ちた…（溜息）。

振り返ってみると、選手たちもスタッフも、そして僕らサポーターも、あまりに勝利に（しかもホーム戦での勝利に）飢えすぎていて、少し（かなり？）ナーバスになっていたのではないかと、僕個人の猛省も含めて、感じている。確かに審判のジャッジには個人的に不可解な部分もあった。だけど、残念ながら、それも引くくめて『これがサッカーだ』。審判が試合をコントロールしなくても、こちら側が冷静になって試合をコントロールすべきではなかったんだろうか…そんなことを、今は感じている。まあ、ゴール裏で応援している時には、そんな冷静ではいられないかもしれないのだけれど（苦笑）。かなり手痛い授業料を払ってしまった。

しかし、まだ終わった訳じゃないし、まだ終われない。最後まで、全力で応援するだけだ。（ささたく）

●臍に落ちない。落ちていかない結末。内容や展開はともかく、勝てる試合だった。勝ち点3を得なければいけない試合だった。痛恨。それ以外に言いようがあるだろうか。主審の判定には思うところがないワケではない。ミシャエルが黄紙をもらった場面。彼が警告を受けるのはしかたないが、ウチの選手を突き飛ばした山口の選手にもお咎めはあるべきだ、とか。ああ、前田神へのチャージは文句なしにPKだ。今でもそう思っている。ただ、そんなことは枝葉末節の、正直どうでもいい話。どうしても臍に落ちないし、納得いかないのが、そのPKを取ってもらえなかった場面。なぜ、ボールをキープ

して時間を使わなかったのか？たしかに、2点差をつければタイムアップを待たずして、勝利は確定しただろう。だが、たとえ一点差でも勝ちも勝ち。誰もゴール前に顔を出していない状態で単騎で突っ込んでいく必要があったのか。まさか、敵を欺くには、まず味方から…というワケでもないだろう。試合の進め方、仕舞い方に疑問、いや、悔いが残ってしょうがなかった。試合後にDAZNの配信を見て、前田神のプレーから同点弾までには1~2分の間があったことに気がついた。ならば、ゴールを狙いに行ったのもやむをえないことなのか。それでも、やはり未だに臍に落ちていかないのだ。それは選手交替にも言える。航汰の負傷というアクシデントでシナリオが狂ったと思うが、最後の枠が前田神でよかったのか。ボク自身の予想ではババケンかライザ。前線からプレスを掛けていけるような、そのうえでカウンターもねええるような選手を想定していたのだが、その予想は外れてしまった。機会があったら監督に聞いてみたい。なぜ、前田神だったのか、と。

とはいえ、それは今さらの話か。ただ、本当に残念な結果になってしまった。残留争いの相手が二つとも足踏みをしてくれたというのに、詰め寄ることもプレッシャーをかけることもできなかった。もったいない話だ。

だが、それでも、次の試合はやってくる。残念ながら、そのアウェイ・山形へは行けないけれども、別の場所から勝利を願っている。現地に赴く方々、全力の後押しをお願いします。行けなかったことを悔しがらせてください！（ぐん、）

●前半の組み立てはベストに近いベターに見えた。そりゃ劣勢だったさ。でも、そんなのは承知のうえでしっかりと耐え、少ないチャンスを活かしてゴールを奪うプラン。そして実際にゴールも奪えた。もちろん、後半もうまくコトが運ぶとは思えない。山口は攻撃的選手を入れて2列目の三幸を1列下げよう。展開力がある彼は2列目よりアンカーの位置に置かれる方がずっと恐い。実際に、三幸のポジションを下げた後半は開始から山口に見事にボールを動かされて前半以上の防戦状態。でも、だからといって。後半20分過ぎに5バックにしてしまうとは、「1-0で勝つ」というメッセージを出すにはいくらなんでも早過ぎる。

5-4-1の布陣は典型的なカウンター狙い。そして、岐阜にはカウンター狙いのスペシャリストがいない。2点目を奪う可能性も、自分たちで摘み取ってしまった。いつしか、5-4-1は5-4-0-1に。孤立して苛立ちを深めるミシャエル。そして前線で走り回ってもう加速もつかなくなったミシャエルに替え…ないで、フレデリック→前田。1-0で受けきる覚悟を決めてたのなら、ここは動けないミシャエル→馬場で、前線から激しくボールを追いまわして相手の攻撃を遅らせる策の方が…とは思っただけで、監督には別の考えがあったのだろう。その考え通りには進まなかった、というだけだ。かくして、ラストプレーで綺麗にぶち抜かれた岐阜は勝ち点2が逃げていった。だから、ぼくの感想は「勝てる試合を落とした」のではなく「勝てる可能性があった試合を勝てない試合にした」。まさに『泥沼』もがくことでさらに沈んでいく。自分で残留争いを苦しくしている。（吉田鑄造）

## 【第36節】山形 2-0 岐阜

●台風19号が直撃した3連休の日本列島。特に東日本を中心とした地域には大きな被害と犠牲者が出た。この紙面をお借りして、亡くなられた方の御冥福と被害に遭われた地域の1日も早い復興をお祈りします。

さて、試合は1日順延され、僕が予定していた便は欠航。新幹線も止まって予定が立たなくなってしまったこともあり、今回は遠征を見送ってDAZN観戦に。

岐阜は、前節の山口戦からスタメンを3名変更。#8フレデリックはガボン代表に招集されちゃったし、#31 宮本航汰は負傷退場したから仕方がないのだけれど、残念ながら、前

節とは明らかにチームの状態がよくない。チームは金曜から現地入りしていたというから、アウェイでのコンディション調整にも苦労したと思うし、対戦相手も上位の山形だからという面もあるけれど、それにしたって前半9分の失点、しかもゴール前に何人もいたのにシュート撃たれて失点するのは、ダメでしょ…（溜息）。失点後は守備がハマりだして前半の残り時間を無失点に抑えたものの、攻撃はほとんど形にならず、撃ったシュートは#26 咸泳俊の、それも大きく枠を外した1本のみ。

で、後半早々に#5川西翔太と#36 タビナスの2枚替えは作戦通りだと思うんですよ。#5川西に中盤でボールをキープさせて、#33 ミシャエルと#36 タビナスの突破で得点を奪うという。で、実際に攻撃の形は何度か見られるんだけど、たぶん作戦では無失点の状態の後半に突入している想定。残念ながら失点済み、しかも今季は1試合平均の失点が1点未満と堅守を誇る山形、先制して守備を固めているから、岐阜はシュートまでには至らない。よくこのチームに開幕戦で2点獲って勝てたよなあ…お互いに『全く別のチームになっている』ということなのだね（溜息）。

一方の山形は、後半途中から攻撃陣を入れ替えて、再び攻撃のギアを入れはじめると、徐々に岐阜の選手たちの対応が遅れはじめる。2失点目も、完全に対応が遅れてフリーにさせてしまい、ゴール前に何人も選手がいるのにシュートを撃たせてしまったの失点。濡れたピッチに足を取られる場面も見られ、このあたり、フィジカル練習不足のツケがきてしまっていると感じてしまった。

ほぼ、何もさせて貰えずに0-2での敗戦。後半は岐阜のシュートはゼロ。前半で1本あったと思ったのに、公式記録ではゼロに修正されてるじゃないですか（苦笑）。つまり、これがホントの“完封負け”…（溜息）。

あー悔しい。DAZN 観戦してたって悔しいんだから、現地組はさぞや悔しかったことだろう。そして、選手たちも。この悔しさをバネにして、今節こそ勝利を！そしてホームでの万歳四唱を！（ささたく）

●選手に言いたいことはただひとつ。「マイボールを大事にしよう。」それに尽きる。特に、最終ラインでのハイボールの処理。どうして、そんなにダイレクトでヘディングしようとするのか。確実に味方に渡せるのなら問題ないが、相手に渡しては意味がない。それどころか、たちどころにピンチになってしまうじゃないか。余裕のない場面ならともかく、胸でも足でもトラップして周囲を確認できるような場面でもダイレクトにヘディングする場面が多々あったような気がする。横断歩道を渡るときの標語じゃないけど「右見て、左見て、もう一度右を見て渡る。」くらいの余裕がほしい。ボールをキープしている間は失点しないはず。そのための繋ぎを2年とちょっとやってきたんだよね？指揮官が変わったからと言って、そこは忘れてほしくない。積み重ねた経験を活かさなければね。

いずれにせよ、残留争いの相手とは、また少し差が開いてしまった。だが、まだ、これからだ。ココからが正念場。ひとつ、ひとつ勝つしかない。まずはこの愛媛戦。絶対、勝とう！（ぐん、）

## 祝！フレデリック、代表招集

●フレデリック選手がガボン代表として10/11のブルキナファソ戦、10/15のモロッコ戦に招集されました。FC岐阜の歴史上、在籍中の選手がA代表に呼ばれるのは初めてのことです。

フレデリック選手はモロッコ戦で背番号10でスタメン出場、試合も3-2で勝利しました。ちなみに対戦相手のモロッコ代表の監督は元・日本代表監督のハリルホジッチ氏、就任4試合目で初黒星だったそうです。（吉田鑄造）

## スタジアムが一体になる、ということ

●ミシャエルのゴールで追いついた34節の横浜FC戦と、この山口戦で、ホーム長良川はどう違ったのか。「真逆だった」とも言えるし、「実は同じだった」とも言える。

雰囲気、空気感は「真逆」。横浜戦で、同点ゴールが決まってから試合終了までの「いける！逆転出来る！」という雰囲気からは、対戦相手・横浜FCのサポをして「あれはすごかった」「ああいう中でも勝てるチームになりたい」との感想が聞こえてくるほど、チームを後押しするパワーを感じた。

翌週の山口戦。残念ながらそこにチームを鼓舞する気配はほぼ皆無で、主審の判定が山口側（岐阜のファール）に下された時にスタジアム全体でブーイングを飛ばしているように思えた。極端だけど、「審判への不満を表現するために試合を観ている」感じすらあった。

ブーイングを浴びせる効果は2つあって、1つは「不満を持っていることを相手にわからせる」。もう1つは「相手を冷静でなくす、ミスを誘う」。その点、2つめの効果は出たのかもしれない。山口戦の試合終了間際、同点にされる直前の前田が倒されたシーン。主審にブーイングを浴びせまくった結果、冷静さを失ってPKの判定が出来なかった、のかもしれない。「かも」だけだね。

さて、真逆と受け止められるこの2試合。実は同じだったという解釈も出来る。「スタジアムが一体になった」。それがポジティブなパワーで満たされれば横浜FC戦のようになり、ネガティブなパワーで満たされれば山口戦のようになる。山口戦の試合終了の瞬間、ぼくがいたメインスタンドでは大きな声で「サイテー！サイテー！」と審判に怒りと苛立ちをぶつける子ども声があった。果たしてこれがクラブのスローガン『子どもたちに夢を！』の到達点なのか。「そうだ」というなら、それでもいい。もちろん、そこに理由（エクスキューズ）はあるだろう。「だって、主審がアレだったから。特別だ」と。だとしたら、横浜FC戦で相手サポからも讃えられた、ポジティブな空気に満ちたあの誇らしい長良川だって、残念ながらかりそめだ。（吉田鑄造）

## 10/18 時点のJ3順位表。

1	群馬	49p	+22	51	29	残り8	★J2ライセンス
2	北九州	49p	+15	38	23	残り8	★J2ライセンス
-----							
3	藤枝	49p	+11	36	25	残り8	
4	熊本	46p	+6	36	30	残り8	★J2ライセンス
5	富山	42p	+15	41	26	残り8	★J2ライセンス
6	鳥取	39p	-7	39	46	残り8	★J2ライセンス

藤枝MYFCは来季のJ2ライセンスを取得できませんでした。従って、今季の藤枝の最終順位が2位以内の場合、J2のJ3降格枠が1になります（J2の21位は残留）。

『岐大通』ではFC岐阜のJ2残留が決まるまで、J3情報を掲載していきます。（編集人：吉田鑄造）

